

目標	重点項目	主な具体策	評価指標	評価方法・評価基準	関連アンケート等	肯定回答	教職員による自己評価	学校評議員による学校関係者評価
確かな学力へ楽しく学び考える子	①読書指導の充実を図る。	●児童の発達段階に応じて、「おすすめの本」を提示する。	●各学年別に国語の教科書に載っている「おすすめの本」を示すことによって、児童の読書意欲を高めている。	●「おすすめの本」を目標とする冊数分読んだ児童の割合を把握する。(低学年6冊、中学年4冊、高学年2冊) →50%以上の児童が目標冊数以上を読破	児No.13 保No.11	79% 53%	◆目標冊数を大きく上回った児童も数多くいた。「おすすめの本一覽」を掲示してチェック表を配付するとともに、各学年の廊下に「おすすめの本コーナー」を設置したことで児童の読書意欲を高めることができた。 ◆1人2冊借りられるようにしたことで、貸し出し数が伸びた。 ◆目標冊数を読むことができた児童に「がんばり賞」を授与していきたい。 ◆同じ本を複数冊購入できるとよい。	◇図書室がオープンで明るく、本を見ただけでも読みたくなるように工夫して配置されている。図書ボランティアの支援が大きい。 ◇低学年から本に親しむ習慣が身に付けば、知識も豊かになる。 ◇高学年のうちに、家庭学習の習慣を身に付けさせる必要がある。 ◇自主的に学習したり親が子供にアドバイスしたりすることが難しい家庭もあるので、宿題は出す必要があるのでではないか。
	②家庭学習の定着を図る。	●「家庭学習の手引き」を配付し、やってきた課題を見取る。	●意欲的に学習に取り組もうとしている。	●「学年×10分」の家庭学習をやってきた児童の割合を把握する。 →70%以上の児童が達成	児No.12 保No.10	90% 78%	◆自主学習のやり方や具体例を児童だけでなく保護者にも示すことで、家庭学習の習慣が身に付いてきた。(自主学習を奨励している4年生以上の保護者に「自主学習のすすめ」を配付・説明)	◇親子で共に取り組むノーテレビノーゲームデーを推奨できるとよい。
豊かな人間性へ思いやりのある子	①人権を基盤とした人間関係の形成を図る。	●夏季と冬季の年2回、人権週間を実施し、人権意識を高める。 ●がんばり賞・思いやり賞を授与して、一人一人の児童のよさを認め、励ます。	●人権週間中に、人権集会を開いたり、人権作文や人権標語を作成したりして、人権に対する啓発に努めている。	●Q U(楽しい学校生活を送るためのアンケート)や、児童・保護者アンケートにより、実態を把握する。 →Q Uで「学級生活満足群」に入る児童が80%以上	Q U 児No.6 児No.8 保No.3	82% 98% 99% 74%	◆年2回の人権週間により、児童の人権意識の高揚を図ることができた。 ◆日々の活動において児童のよいところを認め励ますとともに、Q Uの結果を受けての支援やがんばり賞・思いやり賞の授与などにより、児童の自尊感情を高めることができた。 ◆いじめ対策への取組状況に関して、保護者への周知や説明が不十分だったので、PTA総会や学年部会、家庭訪問等で話題にするようにしたい。 ◆いじめアンケートを学期に1回実施していたが、今後は学校独自に作成した「いじめSOSシート」を毎月1回実施していきたい。	◇人権教育が特別なものでなく、日常生活に溶け込んでいるようなところがとてもよい。 ◇各学年だよりに「人権教育コーナー」を設け、毎月、親にも人権意識を何気なくもってもらえるようにしているのは素晴らしい。子供だけでなく親子一緒に人権を学べるのは最高の取組だと思う。 ◇あいさつが大きな声でできている。特に6年生は素晴らしい。 ◇どの児童の傍らに近寄って見たり話しかけたりしても、恥ずかしがらずに受け答えができる。 ◇学習発表の練習では、将来の夢を皆の前で堂々と発表する姿が印象的だった。自尊感情が育っていると感じた。 ◇1年生と5年生の兄弟学年活動がほほえましい。
	②なかよし班活動(異年齢交流活動)の充実を図る。	●なかよしサークル(月1回)やあいさつ運動(学期に1回)、清掃活動(毎日)を効果的に実施する。	●なかよし班活動を実施することにより、集団への連帯感を深め、望ましい人間関係の形成に努めている。	●児童アンケートにより実態を把握する。 →肯定的回答が80%以上	児No.5	99%	◆上級生を中心として、なかよし班活動が、よりまとまりのあるものになった。 ◆上級生の行動を見習う下級生が増え、あいさつや返事、くつ揃えなどが上手にできるようになってきた。	
健康・体力へたくましい子	①基本的な生活習慣を身に付ける。	●早寝・早起き・朝ご飯の習慣を身に付ける。	●児童が基本的な生活習慣の意義を理解し、身に付けようという心がけている。	●児童・保護者アンケートにより、状況を把握する。 →肯定的な回答が90%以上	児No.14 保No.8	88% 83%	◆学校保健委員会で、健康・体力についてテーマを取り上げ、児童・保護者の意識の向上を図ったが不十分であった。 ◆早寝・早起き・朝ご飯の習慣については、定期的に学校から家庭に啓発をしていく必要がある。	◇児童は業間運動に真面目に取り組む、休み時間に外に遊びに行く児童が多い。 ◇児童との会食では、気持ちいい程よく食べる姿を見て、嬉しい気分になった。 ◇クラブスポーツでは、早い時期から1つの競技しか経験できないことや地域行事に参加できないことなどのデメリットもある。学校の部活動で色々なスポーツを経験させるのがよい。 ◇薬物乱用防止教育については、子供の発達の段階に応じて行うのがよい。
	②体力の向上と運動の習慣化を図る。	●業間運動の実施種目を工夫するとともに、「がんばりカード」を活用する。	●児童の体力が向上している。	●体力テストの体力合計点や児童・保護者アンケートにより把握する。 →体力テストで当該学年の前年度の結果と比較し向上	体力テスト 児No.15 保No.4	向上 99% 95%	◆6年生の体力合計点A・B判定の割合を昨年度と比較すると25%から36%に向上した。全体としてソフトボール投げに課題が見られるので、対策を考えたい。 ◆全校児童が業間運動に年間を通して真剣に取り組むことができた。 ◆部活動については、今後も積極的な参加を呼びかけたい。	
家庭・地域・中学校との連携	①開かれた学校づくりに努める。	●保護者や地域住民等に対して、教育活動に関する情報を積極的に発信する。	●各種たより、授業参観、学校Webサイト等を通して学校の様子を積極的に伝えている。	●保護者アンケートにより状況を把握する。 →肯定的な回答が90%以上 ●学校Webサイトの更新状況を比較する。 →昨年度より20%以上増加	保No.2 更新率	97% 倍増	◆学年・学級だよりに加え、学校Webサイトの閲覧が保護者に浸透してきた。 ◆学校Webサイトのトップページをリニューアルするとともに、記事を前年度の倍以上、掲載することができた。(2月末現在の掲載記事数133、前年度60) ◆学校Webサイトの活用の一つとして、学校支援ボランティアの募集も考えられる。	◇公開授業や外部講師による授業の多さに驚いた。地域の教育力を十分に取り入れている。 ◇毛野南小の先生と児童は、人慣れしているというか、外部の人に対して自然体で、変によそよそしくないところがよい。 ◇小中一貫教育の意義について、保護者の理解が進んでいるとは言えない。学力向上の視点で、小中学校の先生方の一体感がでてくるとよい。 ◇夏休みに地域でのボランティアや体験活動を通して、小中学生の交流ができるのではないかと。 ◇夏休みに実施しているサマーセミナーの手伝いを中学生はできないか。
	②中学校区での連携を推進する。	●毛野中の教職員へ毛野南小での授業参観を呼びかける。 ●毛野小の児童との交流の機会を設ける。(あいさつ運動など) ●中学生ボランティアの活躍の場を設定する。	●毛野中の教職員が毛野南小の取組を理解している。 ●毛野地区をみんなで良くしていこうという気運が高まっている。 ●中学生ボランティアの活躍の場が増えている。	●学校公開等の案内により呼びかけができたか。 →1回以上実施 ●6年生同士の交流の機会がもてたか。 →1回以上実施 ●中学生ボランティアへの依頼数が増えたか。 →増加			◆中学校の教職員については学校間協同推進の授業研究会のみの参加であった。互いの校内行事の都合で参加が難しいことが多いが、案内・呼びかけを継続していきたい。 ◆中学校入学説明会前後の時期に、毛野小6年生との交流の場を考えたが、実現できなかった。小中連携の在り方について検討していきたい。 ◆中学生ボランティアについては、運動会片付けの1回だけだったが、参加人数は増加した。次年度は中学生との交流ができなどうか検討したい。	
信頼される教職員	①教職員自らの資質の向上に努める。	●学校課題に基づいて、授業改善に取り組む。	●教材研究を確実にしながら、学校課題を意識しながら分かる授業の展開に努めている。	●児童・保護者アンケートにより、状況を把握する。 →肯定的な回答が90%以上	児No.9 保No.6	96% 92%	◆「授業は分かりやすい」(児童)、「教師は子供のよさを生かしながら進んで学んだり活動したりできるように努めている」(保護者)ともに、肯定的な回答がほとんどであった。今年度は特に、学び合い学習を意識した授業形態を工夫した。今後も教材研究を充分に行い、指導方法の工夫改善に努め、分かる授業を目指していきたい。	◇どのクラスの授業を見ても、先生方が熱心に指導している。 ◇いろいろな新しいことを考え、実行していく先生方の意欲を感じる。 ◇授業参観や公開授業が多く、先生方にも負担がかかったりすると思うが、これだけできるのは素晴らしい。 ◇外部の方々との関わりが、教育効果を上げ、先生方の努力によって生きた授業になっていると感じる。 ◇学校には、様々な年代の先生がいて、それぞれの特技を生かせるとうい。
	②児童一人一人の気持ちや考えを聴き取り、支え励ます。	●児童との触れ合いを通じて児童理解に努めるとともに、共感的な人間関係の確立を目指す。	●言動に配慮しながら、児童との心の交流に努めている。	●保護者アンケートにより、状況を把握する。 →肯定的な回答が90%以上	児No.7 保No.5	98% 91%	◆「先生は相談にのってくれる」(児童)、「教師は日頃から子供の様子を把握し子供や保護者との連携や相談に努めている」(保護者)とも、肯定的な回答が9割を超えた。今後も、「いじめSOSシート」やQ U、いじめストップアドバイザーによる教育相談等を活用しながら、気軽に相談できる環境や体制づくりに努めたい。	